



**BOM 監視オプション
for Citrix Presentation Server
ユーザーズ マニュアル**

2010年2月28日

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジー株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジー株式会社は、本書に含まれた誤謬に関する責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジー株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

Copyright © 2007-2010 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

本ユーザーズマニュアルに記載されている Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

目次

1	システム構成.....	4
1-1	監視機能.....	4
1-2	アクション項目.....	5
2	インストール.....	6
2-1	動作環境.....	6
2-2	事前準備.....	7
2-2-1	インストール手順.....	7
2-3	アンインストール.....	10
2-3-1	アンインストール手順.....	10
3	監視設定.....	11
3-1	監視設定方法.....	11
3-1-1	Citrix オプションの監視項目.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3-1-2	Citrix オプションのアクション項目.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3-2	監視項目の設定.....	13
3-2-1	各監視項目共通の設定.....	13
3-2-2	WTS セッション監視(セッション数取得).....	14
3-2-3	WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得).....	18
3-2-4	WTS パフォーマンスカウンタ監視(カウンタ値取得).....	22
3-2-5	WTS パフォーマンスカウンタ監視(ユーザー/クライアント/セッション リスト取得).....	25
3-2-6	WTS プロセス監視(プロセス数取得).....	28
3-2-7	WTS プロセス監視(ユーザー/クライアント/セッション リスト取得).....	31
3-3	アクション項目の設定.....	34
3-3-1	WTS クライアント通知.....	36
3-3-2	WTS セッションログオフ.....	40
4	付録.....	43
4-1	各監視項目エラーメッセージ一覧.....	43
4-2	各アクション項目エラーメッセージ一覧.....	44

1 システム構成

BOM 監視オプション for Citrix Presentation Server (以下 Citrix オプション)をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。Citrix オプションは OS 標準のリモートデスクトップ/Windows Terminal Service(以下リモートデスクトップ)および Citrix Presentation Server に対応した BOM for Windows Ver.5.0 (以下 BOM5.0)監視オプションです。BOM5.0 標準では不可能なリモートデスクトップ及び Citrix Presentation Server 特有の監視設定が行えます。

また、Citrix オプションの本メディアに関する情報は提供メディアのルートディレクトリにある BOM5.0 の Readme.htm に記述されています。このマニュアルに記述されていない記述等もありますので、まず、Readme.htm をご一読の上、マニュアルを参照頂きますようお願い致します。また、最新の情報については、随時セイ・テクノロジーズのホームページ(<http://www.say-tech.co.jp/>)に掲載されていますので、併せてご覧ください。

Citrix オプションの機能は以下の通りです。

1 - 1 監視機能

Citrix オプション Ver.5.0 は、BOM 5.0 の監視機能に以下の 6 つの監視機能を追加します。

数値を監視するタイプ

監視項目名	機能
WTS セッション監視	Citrix Presentation Serverまたはリモートデスクトップのセッション数を監視します。
WTS パフォーマンスカウンタ監視	Citrix Presentation Serverまたはリモートデスクトップのリソース使用状況を監視します。 (%Processor Time、Elapsed Time[経過時間(秒)]、Working Setなど)
WTS プロセス監視	Citrix Presentation Serverまたはリモートデスクトップの起動プロセスの数を監視します。

※ 上記 3 つの監視項目は、セッションの状態毎、セッションの種類毎、プロトコル毎、指定ユーザーや指定クライアント毎に監視することができます。

※ 以降 Citrix Presentation Server またはリモートデスクトップをまとめて「WTS」と称します。

● リストを取得するタイプ

監視項目名	機能
WTS セッション監視(リスト取得)	指定した条件に合ったセッションのユーザー名リスト、クライアント名リストを取得します。
WTS パフォーマンスカウンタ監視 (リスト取得)	指定した条件に合ったリソースの値のユーザー名リスト、クライアント名リスト、セッションIDリストを取得します。 (%Processor Time、Elapsed Time[経過時間(秒)]、Working Setなど)
WTS プロセス監視(リスト取得)	指定したプロセスの条件に合ったプロセスを起動しているユーザー名リスト、クライアント名リスト、セッションIDリストを取得します。

※ 上記 3 つの監視項目は、セッションの状態毎、セッションの種類毎、プロトコル毎に検出することができます。

ユーザー名:

Citrix 管理コンソールまたはターミナルサービスマネージャで表示される「ユーザー」を示します。

クライアント名:

Citrix 管理コンソールまたはターミナルサービスマネージャで表示される「クライアント名」を示します。

セッション ID:

Citrix 管理コンソールまたはターミナルサービスマネージャで表示される「ID」もしくは「セッション ID」を示します。

1 - 2 アクション項目

Citrix オプション Ver.5.0 は、BOM 5.0 のアクション機能に以下の 2 つのアクション項目を追加します。

イベント処理名	機能
WTS クライアント通知	指定した条件に合った、接続しているユーザー名またはクライアント名またはセッション ID のセッションにメッセージを通知します。
WTS セッションログオフ	指定した条件に合ったユーザー名またはクライアント名またはセッション ID のセッションをログオフします。

2 インストール

Citrix オプションのインストールは Citrix オプションモジュールのインストールと Citrix オプション用ライセンスキーをライセンスマネージャからキー入力することによって行います。Citrix オプションモジュールのインストールに関しては BOM 5.0 のカスタムインストールで行います。Citrix オプション独自のインストーラを起動することはありません。

2 - 1 動作環境

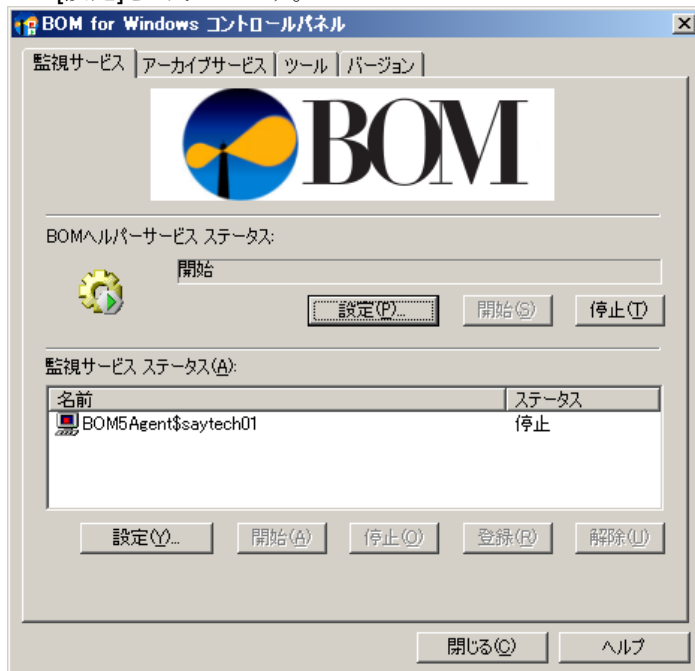
Citrix オプションモジュールは以下の条件の下に動作します。

ハードウェア/ソフトウェア	動作要件
監視対象 Presentation Serverコンピュータ	
■ 最低限のハードウェア要件	BOM for Windowsおよび使用するCitrix Presentation Serverの動作要件に準ずる
■ 対応OS	Windows 2000 Server / Advanced Server (SP4)(32bit版)日本語版 Windows Server 2003 各エディション Windows Server 2003 R2 各エディション Windows Server 2008 各エディション Windows Server 2008 R2 各エディション
■ 対応BOMバージョン	BOM for Windows Ver.5.0 SR3
■ Citrix Presentation Serverバージョン	Presentation Server 4.0 Presentation Server 4.5
■ Citrix XenApp	XenApp 5.0
■ Windows Terminal Serviceバージョン	Windows 2000 Server Terminal Service (RDP 5.0) Windows 2000 Server Terminal Service (RDP 5.2) Windows 2008 Server Terminal Service (RDP 6.1)

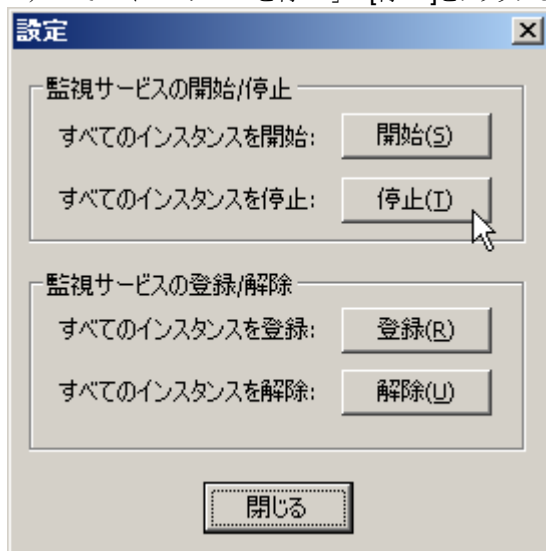
Citrix オプションモジュールは BOM 5.0 が既に導入されており、正常に起動することを前提としています。もし、BOM5.0 が未導入の端末に導入する場合は、まず BOM5.0 を導入し、正常に動作することを確認してから、このマニュアルに従ってインストールして下さい。

2 - 2 事前準備

- BOM 5.0 がインストールされているかを確認してください。
- ローカルコンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントで、コンピュータにログインしてください。スタートメニューから BOM コントロールパネルを起動して[監視サービス]タブの[監視サービスステータス]セクションの[設定]をクリックします。



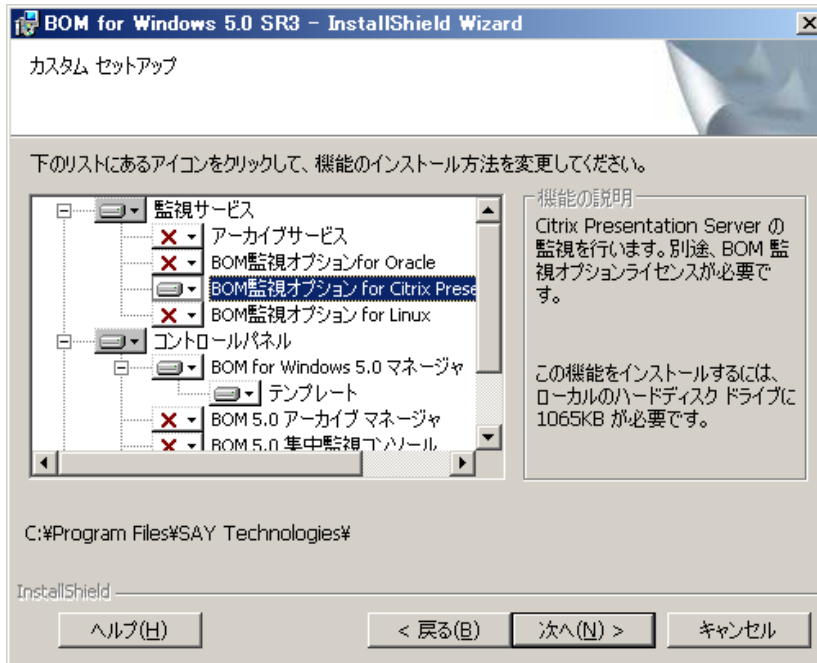
「すべてのインスタンスを停止」の[停止]をクリックし、ローカルコンピュータのインスタンス監視をすべて停止します。



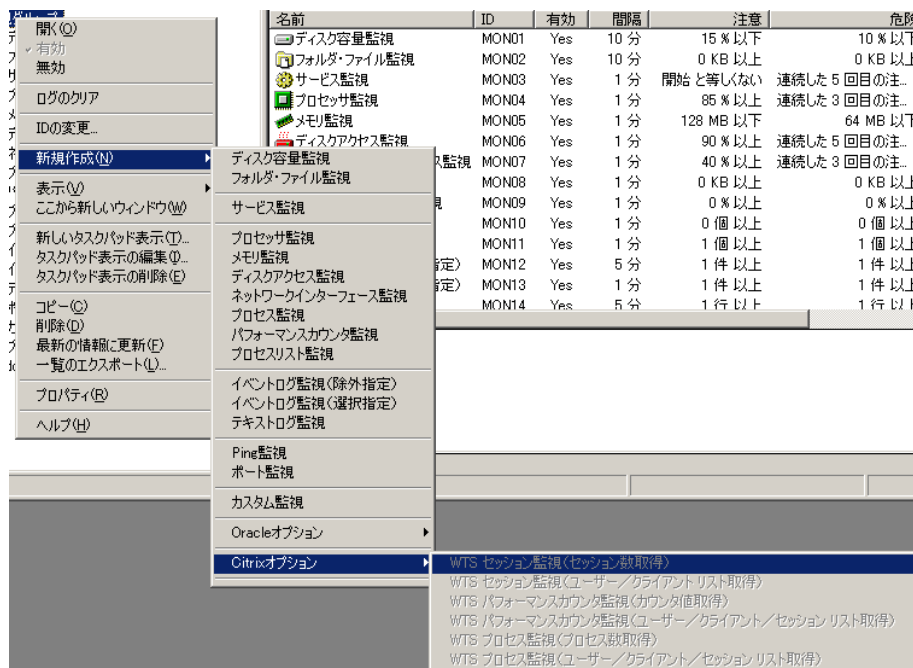
2 - 2 - 1 インストール手順

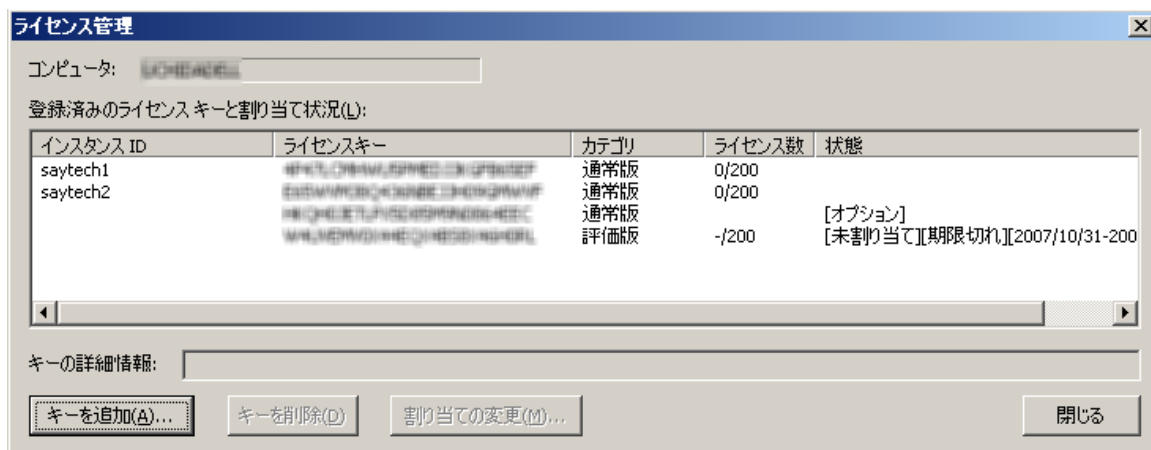
Citrix オプションのインストールは Citrix オプションモジュールのインストールと Citrix オプション用ライセンスキーをライセンスマネージャからキー入力することによって行います。

- a. Citrix オプションモジュールのインストール
 1. BOM 5.0 のメディアを CD-ROM に挿入します。
 2. Windows のコントロールパネルから[アプリケーションの追加と削除]で BOM 5.0 の[変更と削除]をクリックします。[変更]をクリックし、[次へ]をクリックします。
 3. 機能の選択画面から[BOM 監視オプション for Citrix Presentation Server]を選択し、次へをクリックします。完了画面にて Citrix オプションモジュールのインストールは終了です。



4. 本作業により、BOM 5.0 マネージャに Citrix オプションのメニューが新規に追加されました。インストール終了後もライセンスキーの入力を実施しないと監視設定はアクティブにならず、Citrix オプション内のメニューは選択できません。続いてライセンスキーの入力を実施します。





8. そのキーにフォーカスを当てるとキーの詳細情報が出てきます。
9. 上記のようにライセンス管理画面で登録されたキーが[オプション]に登録されていればインストールは終了です。

2 - 3 アンインストール

Citrix オプションモジュールのアンインストールはライセンスマネージャと OS 標準のコントロールパネルを使用して行います。

Citrix オプション Ver.5.0 をアンインストールする前に、以下の操作を行ってください。

- ローカルコンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントで、コンピュータにログインしてください。
- スタートメニューから **BOM** コントロールパネルを起動して[監視サービス]タブの[監視サービスステータス]セクションの[設定]をクリックします。「すべてのインスタンスを停止」の[停止]をクリックし、ローカルコンピュータのインスタンス監視をすべて停止します。

2 - 3 - 1 アンインストール手順

a. ライセンスキーの削除

1. BOM 5.0 マネージャを起動し、「接続」をクリックします。
2. BOM for Windows (ローカル)を右クリックし、そのメニューから「ライセンスマネージャ」をクリックします。
3. 現在使用している Citrix オプションのキーをクリックします。
4. 「キーを削除」をクリックします。これでライセンスの削除は終了しました。

b. Citrix オプションモジュールのアンインストール

1. Windows のコントロールパネルから[プログラムの追加と削除]で BOM for Windows Ver.5.0 の[変更と削除]をクリックします。[変更]をクリックし、[次へ]をクリックします。
2. 機能の選択画面から[BOM 監視オプション for Citrix Presentation Server]のチェックをはずし、次へをクリックします。アンインストールが終了すると完了画面が表示されます。

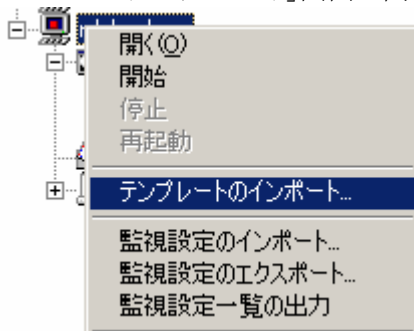
3 監視設定

Citrix オプションをインストールすると、監視対象メニューとカスタム設定メニューに Citrix オプションメニューの各設定項目がアクティブ表示になります。また、アクション項目 Citrix オプションのアクション項目がアクティブ表示になります。それぞれについて説明します。

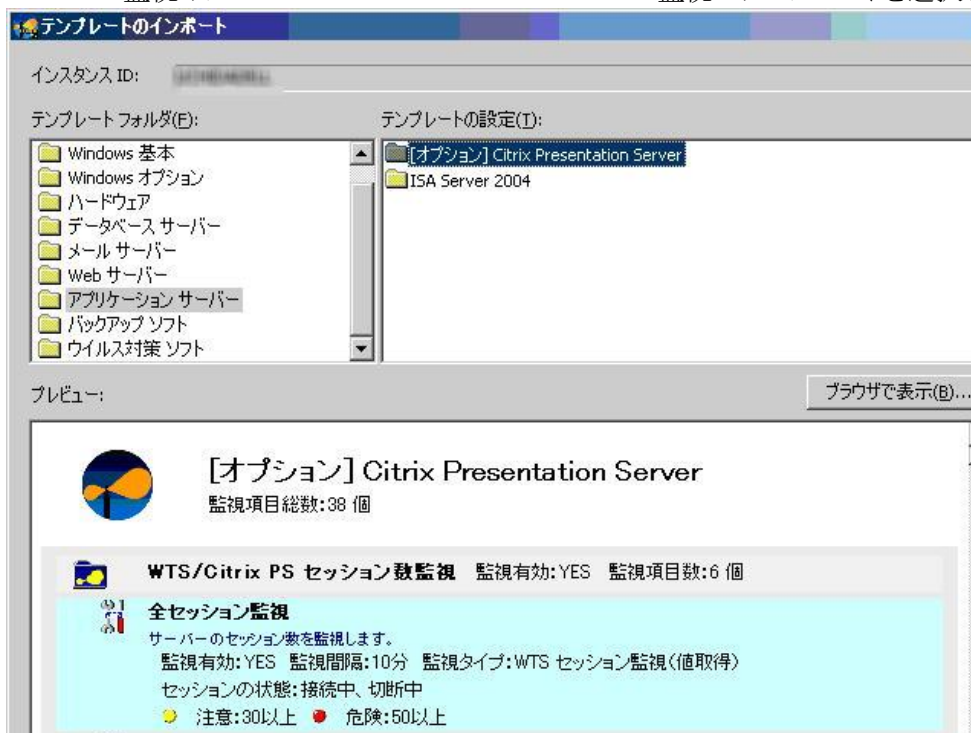
3-1 監視設定方法

3-1-1 テンプレートのインポートより作成

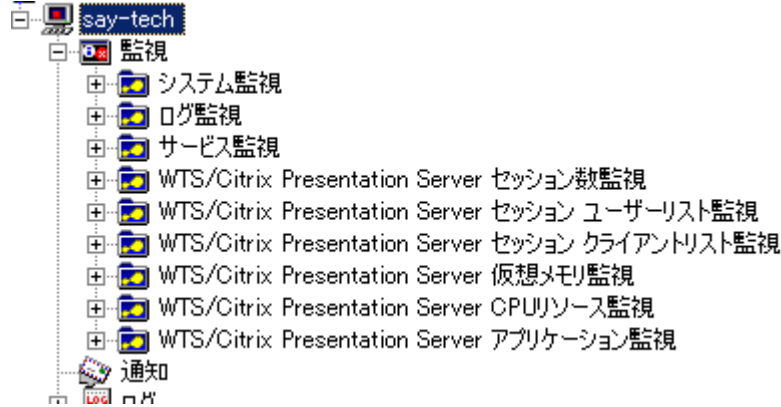
- a. インスタンスが停止していることを確認します。
- b. インスタンスノードを右クリックしてポップアップメニューのテンプレートのインポートをクリックすると[テンプレートのインポート]画面が開きます。



- c. BOM 監視オプション for Citrix Presentation Server 監視のテンプレートを選択します。



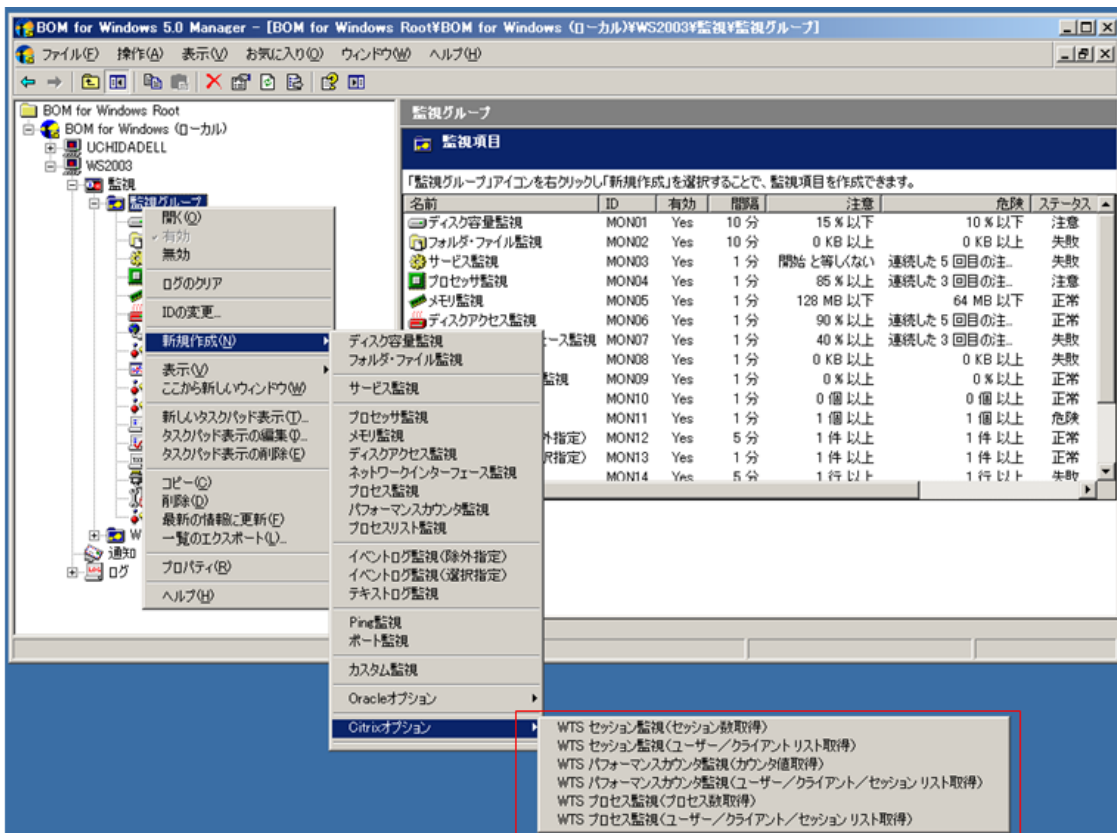
- d. [インポート]ボタンをクリックすると該当するテンプレートが一つの監視グループとしてインポートされます。
- e. 監視グループが作成されていることを確認します。「監視」ノードをクリックして、Citrix 関連の監視グループが作成されていることを確認できます。



3 - 1 - 2 Citrix オプションの監視項目

Citrix オプションをインストールすると、BOM 5.0 マネージャの監視グループの新規作成メニューに Citrix 監視メニューの設定項目がアクティブ表示されます。

スコープペインの[監視]→[新規作成]→[監視グループ]をクリックすると監視グループが作成されます。[監視グループ]→[新規作成]→[Citrix オプション]をクリックすると Citrix オプションの各監視項目メニューが現れます。



3 - 2 監視項目の設定

Citrix オプションで追加された[WTS セッション監視][WTS パフォーマンスカウンタ監視] [WTS プロセス監視] の設定方法を説明します。[全般]タブについては、各監視項目で共通の設定になります。

3 - 2 - 1 各監視項目共通の設定

有効 :チェックボックスにチェックを入れると本監視項目が有効になります。

名前 :監視項目の名前を指定します。127 文字まで入力可能です。

コメント :3000 文字以内で入力することができます。テンプレートをコピーして監視設定を行う場合は、ここに有用な情報が書かれている場合がありますので必ず確認してください。

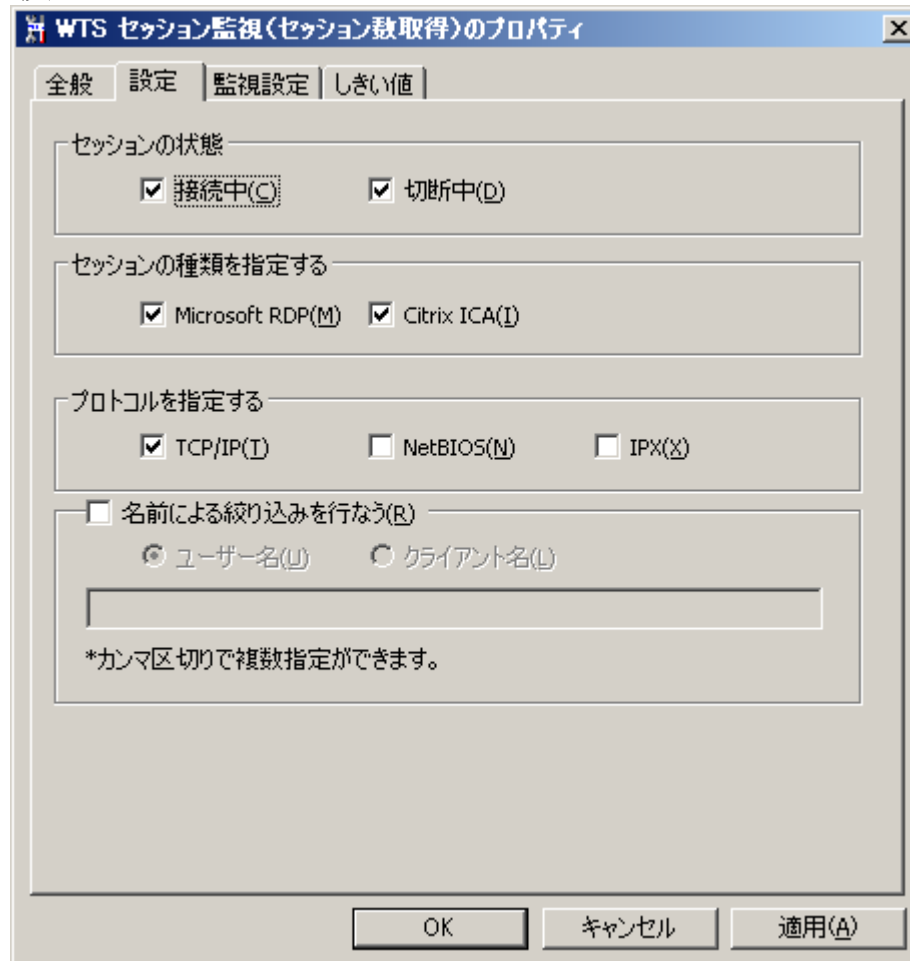
間隔 :監視間隔を指定します。数値は 9999 まで入力できます。時間は秒、分、時間、日まで指定できます。

開始時刻 :監視を開始する時刻を指定します。デフォルトはインスタンス監視サービスが開始直後になります。時刻指定を行い、監視を指定した時刻から始めたい場合には日時を設定します。

3 - 2 - 2 WTS セッション監視 (セッション数取得)

指定した条件に該当する WTS のセッション数を監視します。

A. 設定



a. セッションの状態:

監視するセッションの状態を指定します。「接続中」及び「切断中」にチェックを入れてください。
(必須)

接続中: 接続中のセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールで、[セッション]タブの「状態」が“アクティブ”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、“Active”と表示されます。)

さらに[セッションの種類を指定する][プロトコルを指定する][名前による絞り込みを行なう]の絞り込み条件を指定することができます。

切断中: 切断状態のセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールでは、[セッション]タブの「状態」が“切断”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、“Disconnected”と表示されます。)

さらに[名前による絞り込みを行なう]の絞り込み条件を指定することができます。

b. セッションの種類を指定する:

Microsoft の RDP および Citrix ICA にチェックを入れます。指定は複数設定も可能です。「切断中」のセッションに対しての指定は無効となります。(Citrix 管理コンソールもしくはターミナルサービスマネージャで、[セッション]タブの「セッション」が”Console”と表示されるセッションも含まれます)。(必須)

Microsoft RDP:

リモートデスクトップクライアントのセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールでセッションの種類が”RDP”と表示されるセッションが対象になります。(ターミナルサービスマネージャでは、”Microsoft RDP”と表示されます。)

Citrix ICA:

Citrix クライアントのセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールで、[セッション]タブの「種類」が”ICA”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、”ICA”と表示されます。)

c. プロトコルを指定する:

セッションのプロトコル種類を指定できます。指定は複数設定も可能です。ただし、「切断中」のセッションに対しての指定は無効となります。(Citrix 管理コンソールもしくはターミナルサービスマネージャで、[セッション]タブの「セッション」が”Console”と表示されるセッションは含みません)指定できるプロトコルの種類は、TCP/IP, NetBIOS, IPX の 3 種類です。(必須)

d. 名前による絞り込みを行なう:

ユーザー名かクライアント名をクリックし、入力した条件で絞り込みを行います。カンマ区切りで指定すると、複数のユーザーまたはクライアントに対して絞り込みを行うことができます。名前を入力するときは、スペースは入力しないでください。

以下の場合には、名前による絞り込みは行われません。

- ・ [名前による絞り込みを行なう]にチェックを入れない場合
- ・ ユーザー名かクライアント名が入力されていない場合

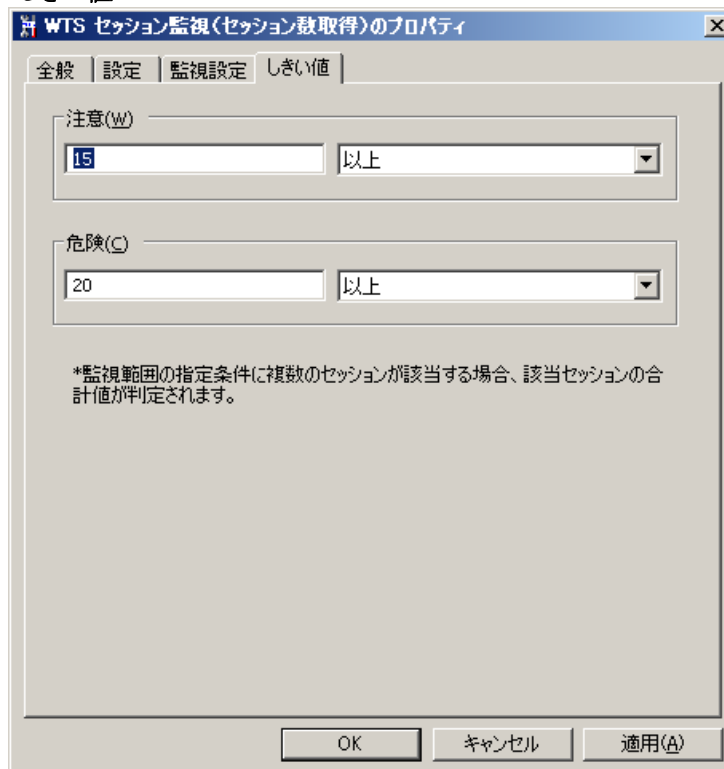
B. 監視設定



a. 現在値の取得:

「現在値の取得」ボタンをクリックすると、[設定]タブで指定した条件に該当するセッション数の合計値を表示します。

C. しきい値



a. 注意条件、b. 危険条件の設定:

注意条件と危険条件のしきい値の設定です。監視サービスが取得した値はここで設定した条件に従ってステータスを判定します。

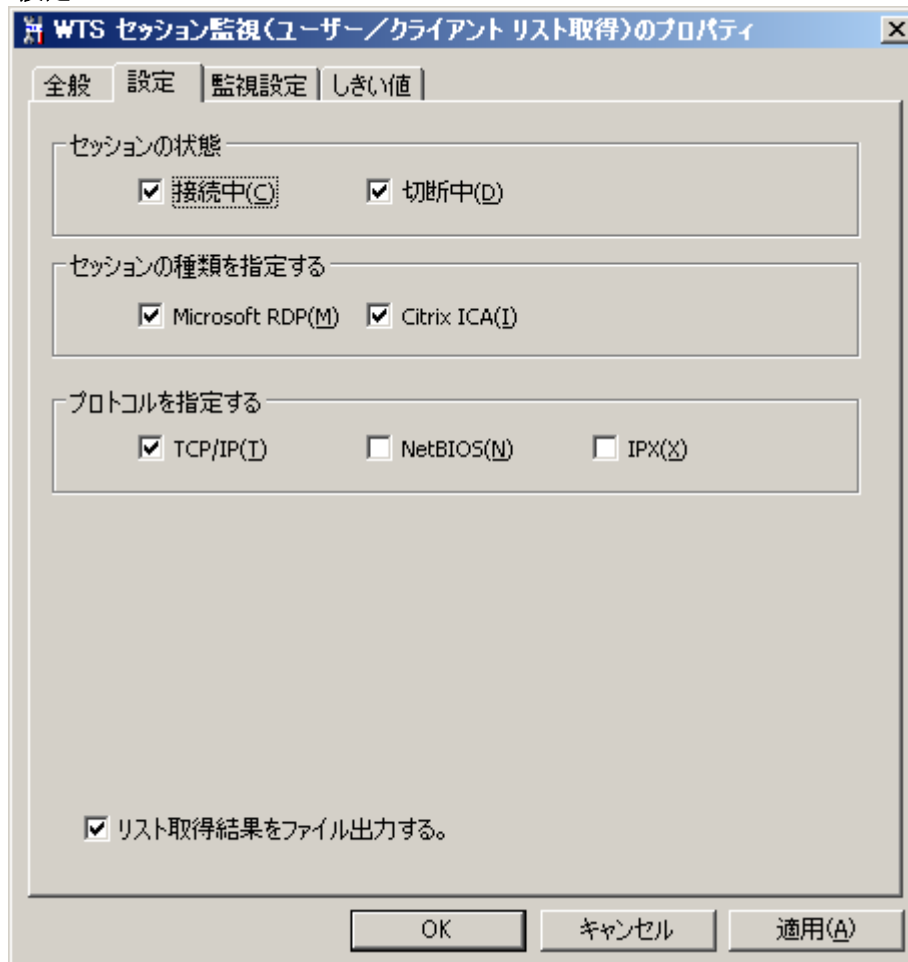
しきい値は[監視設定]タブの「現在値の取得」ボタンで取得した値を参考にして決めてください。

- [注意] :しきい値を設定してください。「と等しい」「と等しくない」「より大きい」「より小さい」「以上」「以下」の条件が選択できます。
- [危険] :しきい値の設定については、上項の設定に加えて「連続した N 回目の注意から」が選択できます。注意が指定した回数以上連続して続いた場合に危険になるという条件です。

3-2-3 WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)

WTS のセッションを監視し、指定した条件に該当するセッションのユーザーまたはクライアントのリストを取得します。ここで取得したユーザーまたはクライアントのリストに対して Citrix オプションのアクションを行うことができます。詳細はアクション設定を参照してください。

A. 設定



a. セッションの状態:

監視するセッションの状態を指定します。「接続中」もしくは「切断中」のどちらかを指定してください。(必須)

詳細の設定は WTS セッション監視(セッション数取得)の「a.セッションの状態」を参照してください。

b. セッションの種類を指定する:

Windows のターミナルサービスクライアントもしくは、Citrix クライアントを指定します。

設定の詳細は WTS セッション監視(セッション数取得)の「b.セッションの種類を指定する」を参照してください。

c. プロトコルを指定する:

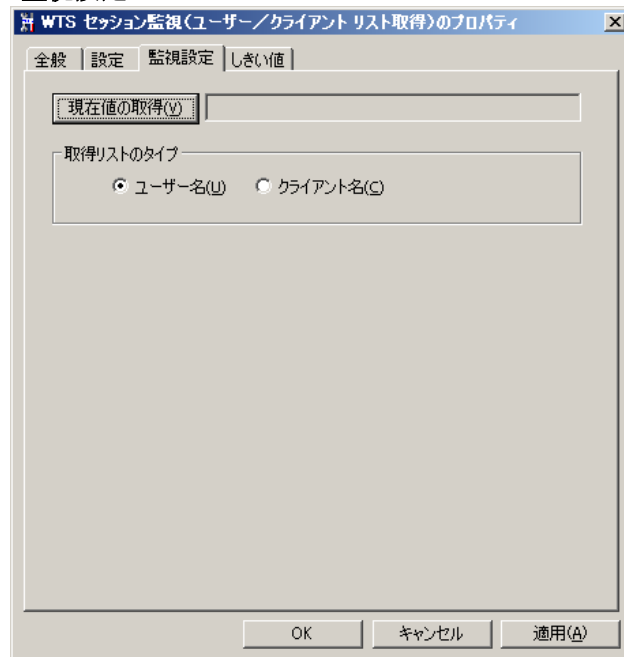
セッションのプロトコル種類を指定します。

設定の詳細は、WTS セッション監視(セッション数取得)の「c.プロトコルを指定する」を参照してください。

d. リスト取得結果をファイル出力する:

取得したユーザーリストやクライアントリストをファイルに出力します。リストのファイルについては、「D.監視結果(取得リストの参照方法)」を参照下さい。

B. 監視設定



a. 現在値の取得:

[設定]タブとしきい値で指定した条件に該当する場合、ユーザーまたはクライアントのリストを表示します。表示するリストのタイプは、「取得リストのタイプ」で選択することができます。

b. 取得リストのタイプ:

取得するリストタイプをユーザー名またはクライアント名で指定します。

C. しきい値

a. しきい値:

注意にはセッション数を入力します。監視サービスが取得する値はこの注意で指定されたセッション数と[設定]タブで指定した条件に該当するユーザー名またはクライアント名になります。危険には注意ステータスの連続回数を指定します。

D.監視結果(取得リストの参照方法)

C.のしきい値に従って監視サービスがリストの取得を行います。表示される監視値は取得リストのアイテム数(数値)になります。

名前	ステータス	値	実行時刻	コード	実行時間(秒)
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:05	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:04	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:03	0	0.063
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:02	0	0.016
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:01	0	0.016
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:01:00	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:00:59	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:00:58	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:00:57	0	0.031
WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)	●危険	1	2007/10/17 16:00:56	0	0.031

取得したリストを見るには以下のディレクトリのテキストファイルを参照下さい。

¥<BOM5.0 インストールディレクトリ>¥BOMW5¥Instance¥<インスタンス名>¥DetectedData¥GRPXXMONYY.log

XX:グループ番号です。「監視」をクリックして表示される監視グループ一覧の GRP で始まる番号です。

YY:監視項目番号です。各監視グループをクリックして表示される MON で始まる番号です。

取得したリストのフォーマットは以下の通りです。

<監視時刻><取得したユーザーリスト><セッション数リスト>

例:

[2007/10/17 16:00:20] Users=Administrator Values=1

[2007/10/17 16:00:21] Users=Administrator Values=1

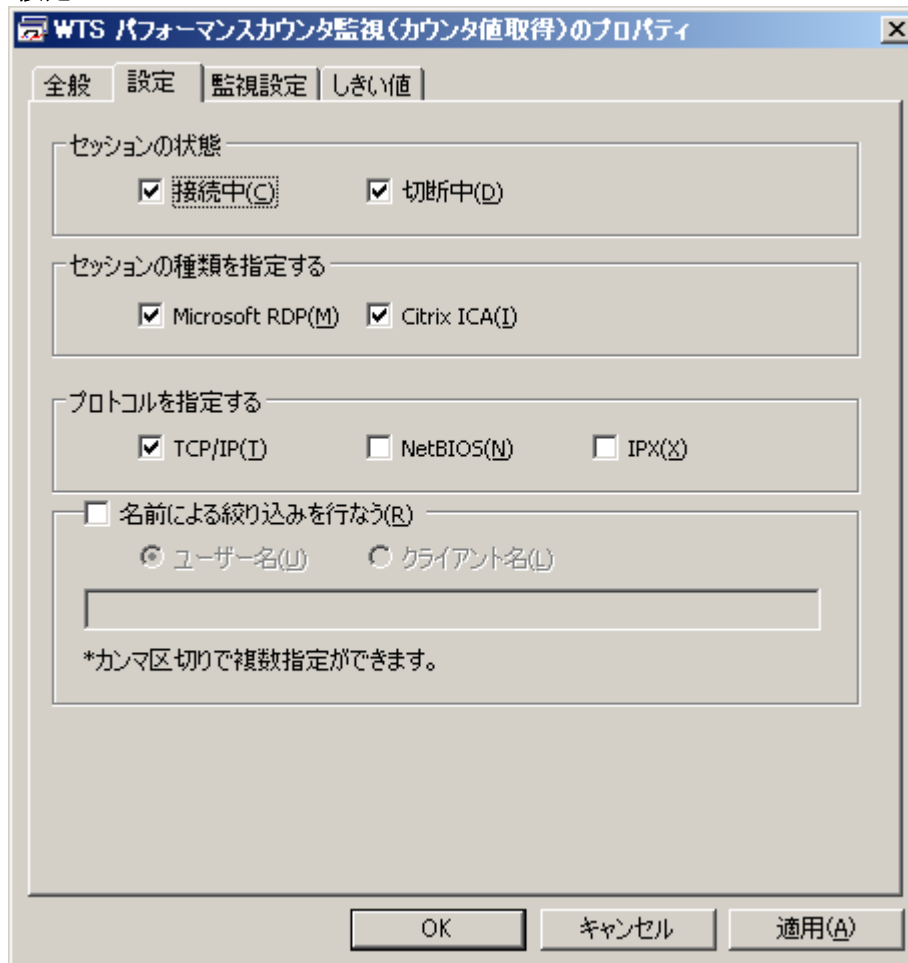
[2007/10/17 16:00:22] Users=Administrator Values=1

.....

3 - 2 - 4 WTS パフォーマンスカウンタ監視(カウンタ値取得)

指定した条件に該当する WTS セッションが使用するリソースと性能監視を行います。

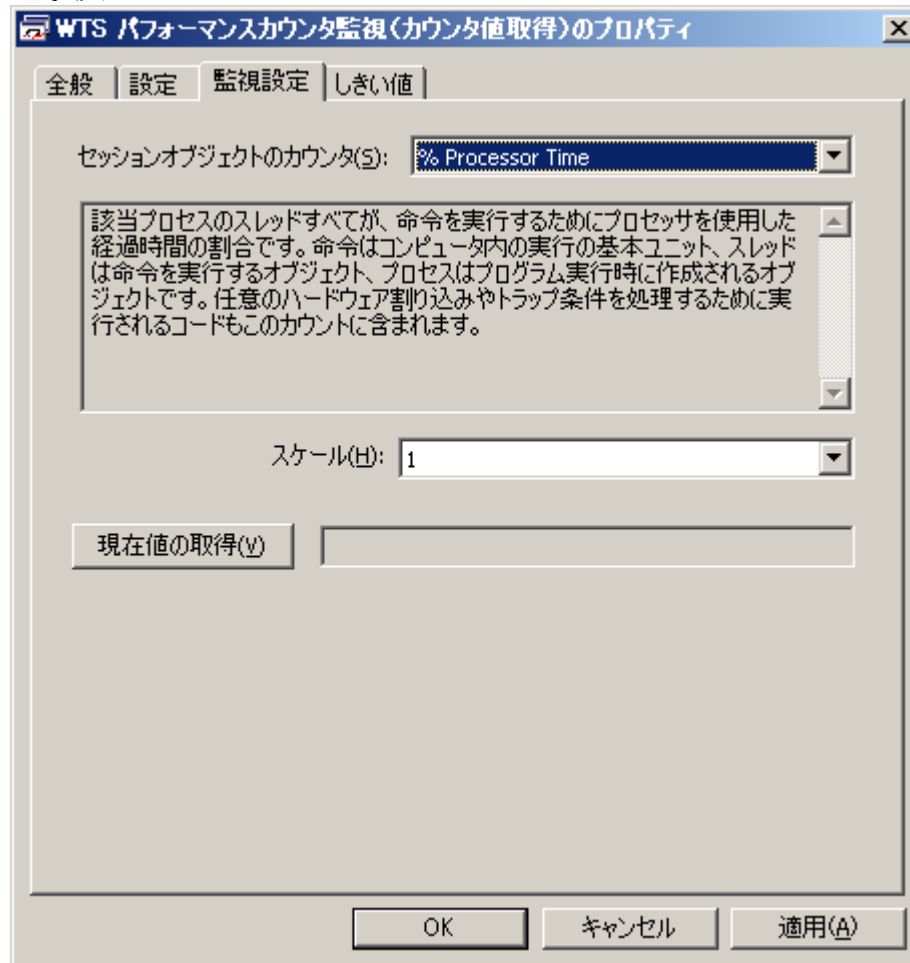
A. 設定



- a. セッションの状態, b.セッションの種類を指定する, c.プロトコルを指定する, d.名前による絞り込みを行なう:

設定の詳細は WTS セッション監視(セッション数取得)の「設定」を参照してください。

B. 監視設定



a. セッションオブジェクトのカウンタ:

監視するセッションのパフォーマンスカウンタを指定します。オブジェクトは「Terminal Services Session」オブジェクトに限定されます。

b. スケール:

取得したカウンタの値を、指定した値でスケールリング (除算) します。

c. 現在の値の取得:

「現在の値を取得」ボタンをクリックすると、[設定] タブで指定した条件に該当するセッションのカウンタ値の合計値を表示します

C. しきい値

WTS パフォーマンスカウンタ監視(カウンタ値取得)のプロパティ

全般 | 設定 | 監視設定 | しきい値

注意(W) _____
35 以上

危険(C) _____
3 連続したN回目の注意から

*監視範囲の指定条件に複数のセッションが該当する場合、該当セッションの合計値が判定されます。

OK キャンセル 適用(A)

a. 注意条件、b. 危険条件の設定:

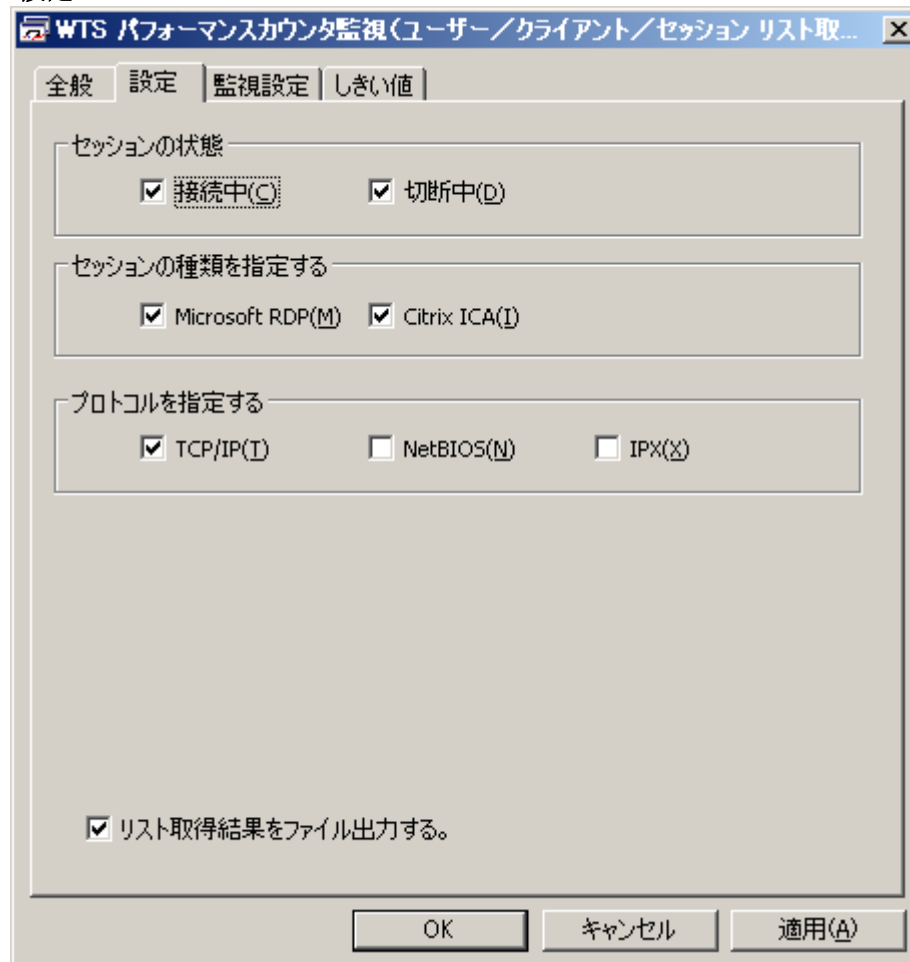
設定の詳細は WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)の[しきい値]タブを参照してください。

3 - 2 - 5 WTS パフォーマンスカウンタ監視(ユーザー/クライアント/セッションリスト取得)

WTS クライアントの使用するリソースと性能監視を行い、指定した条件に該当するセッションのユーザーまたはクライアントまたはセッション ID のリストを取得します。

ここで取得したユーザー、クライアント、セッション ID のリストに対してアクションを行うことができます。詳細は「アクション項目の設定」を参照してください。

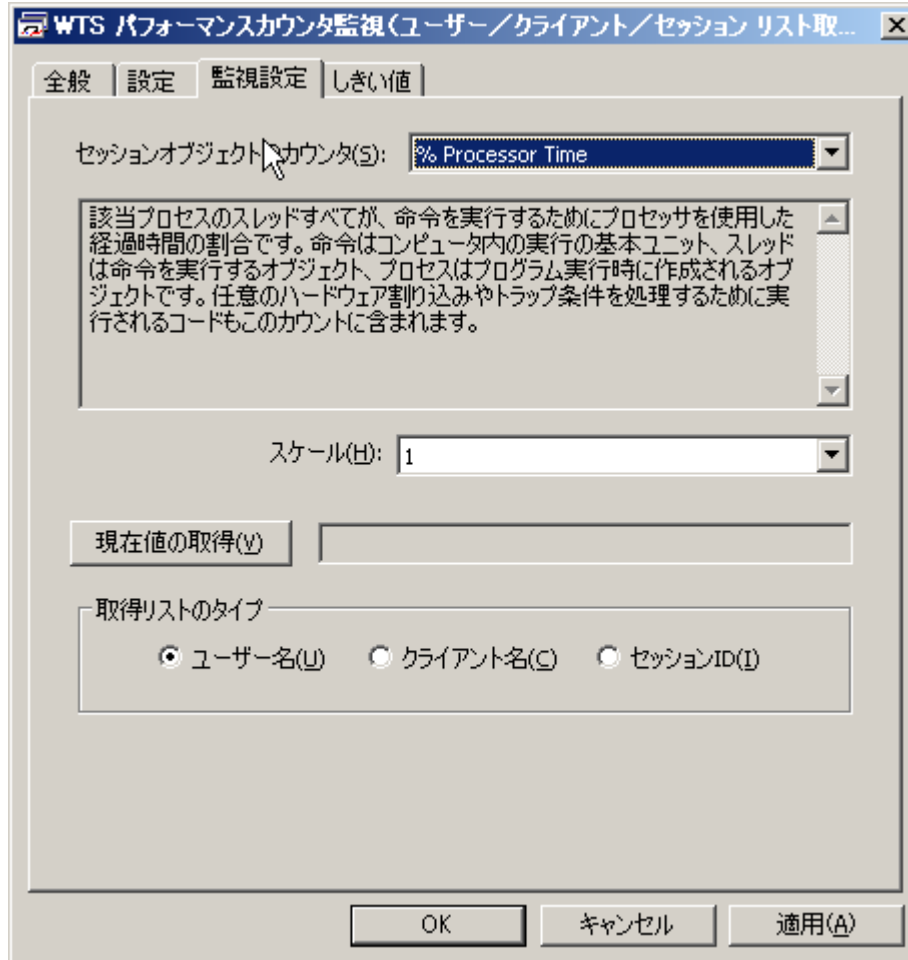
A. 設定



- a. セッションの状態, b.セッションの種類を指定する, c.プロトコルを指定する, d.リスト取得結果をファイル出力する。:

設定の詳細は WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)の「設定」を参照してください。

B. 監視設定



a. セッションオブジェクトのカウンタ:

監視するセッションのパフォーマンスカウンタを指定します。オブジェクトは「Terminal Services Session」オブジェクトに限定されます。

b. スケール:

取得したカウンタの値を、指定した値でスケールリング (除算) します。

c. 現在の値の取得:

[現在の値の取得] ボタンをクリックすると、[監視範囲] タブで指定した条件に該当するセッションのカウンタ値の合計値を表示します

d. 取得リストのタイプ:

取得するリストのタイプをユーザー名、クライアント名、セッション ID からクリックします。

C. しきい値

The screenshot shows a dialog box titled "WTS パフォーマンスカウンタ監視(ユーザー/クライアント/セッション リスト取...". It has four tabs: "全般", "設定", "監視設定", and "しきい値". The "しきい値" tab is active. It contains two sections: "注意(W)" with a text input field containing "3" and a dropdown menu set to "以上"; and "危険(D)" with a text input field containing "3" and the label "回 目の注意から". Below these is a note: "*同一ユーザー(またはクライアント)が複数のセッションを開いている場合、該当セッションの合計値が判定されます。". At the bottom are buttons for "OK", "キャンセル", and "適用(A)".

a. 注意条件、b. 危険条件の設定:

設定の詳細は、WTS セッション監視 (セッション数取得) の[しきい値]タブを参照してください。

D. 監視結果(取得リストの参照方法)

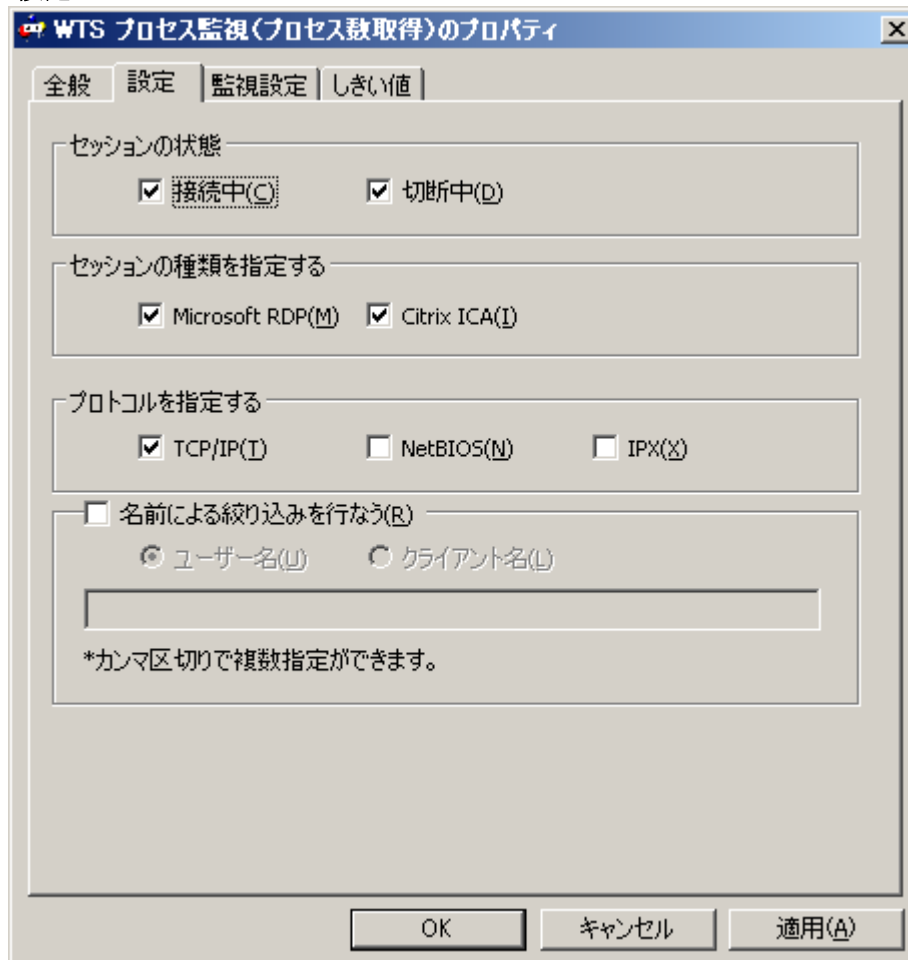
C.のしきい値に従って監視サービスがリストの取得を行います。表示される監視値は取得リストのアイテム数(数値)になります。

詳細は WTS セッション監視 (ユーザー/クライアントリスト取得) の D.監視結果 (取得リストの参照方法)を参照ください。なお、取得したリストを見るためのテキストファイルに監視結果は表示されません。ユーザーリストのみが表示されます。

3 - 2 - 6 WTS プロセス監視(プロセス数取得)

指定した条件に該当する WTS クライアントが使用しているプロセス(例えばワープロ等のアプリケーション)の数を監視します。

A. 設定



- a. セッションの状態, b.セッションの種類を指定する, c.プロトコルを指定する, d.名前による絞り込みを行なう:

設定の詳細は WTS セッション監視(セッション数取得)の「設定」を参照してください。

B. 監視設定

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "WTS プロセス監視(プロセス数取得)のプロパティ". It has four tabs: "全般", "設定", "監視設定", and "しきい値". The "監視設定" tab is selected. Inside the dialog, there is a text input field labeled "プロセス名(P)". Below the field is a note: "*拡張子を含むプロセス名を指定してください。". Below the note is a button labeled "現在値の取得(V)" next to an empty text box. At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル", and "適用(A)".

a. プロセス名:

監視するプロセス名(拡張子を含む)を指定します。プロセス名の前後に余分なスペースは入力しないでください。プロセス名が空欄の状態では[現在値の取得]をクリックするとエラーになります。

b. 現在値の取得:

[設定]タブで指定した条件に該当するプロセスの個数を表示します。

C. しきい値

WTS プロセス監視(プロセス数取得)のプロパティ

全般 | 設定 | 監視設定 | しきい値

注意(W) _____

以上

危険(C) _____

連続したN回目の注意から

*監視範囲の指定条件に複数のセッションが該当する場合、該当セッションの合計値が判定されます。

OK キャンセル 適用(A)

a. 注意条件、b. 危険条件の設定:

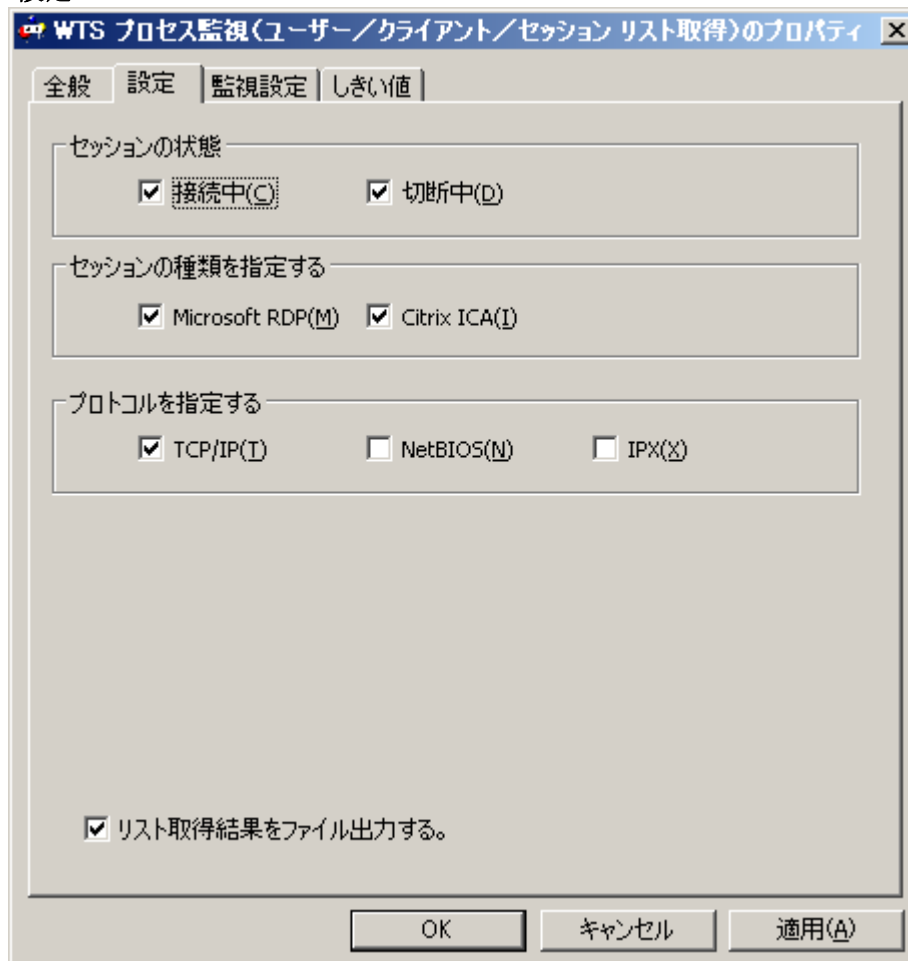
設定の詳細は WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)の[しきい値]タブを参照してください。

3 - 2 - 7 WTS プロセス監視(ユーザー/クライアント/セッション リスト取得)

WTS クライアントが使用しているプロセス(例えばワードプロセッサ等のアプリケーション)の使用個数を監視し、該当するセッションのユーザーまたはクライアントまたはセッション ID のリストを取得します。

ここで取得したユーザー、クライアント、セッション ID のリストに対して WTS イベント処理を行うことができます。詳細は 3.3 イベント処理設定を参照してください。

A. 設定



- a. セッションの状態, b. セッションの種類を指定する, c. プロトコルを指定する, d. リスト出力結果をファイル出力する:

設定の詳細は WTS セッション監視(ユーザー/クライアントリスト取得)の「設定」を参照してください。

B. 監視設定

a. プロセス名:

監視するプロセス名(拡張子を含む)を指定します。プロセス名の前後に余分なスペースは入力しないでください。プロセス名が空欄の状態ですべてのボタンをクリックするとエラーになります。

b. 現在の値の取得:

[設定]タブと[しきい値]タブで指定した条件に該当する場合、ユーザーまたはクライアントまたはセッション ID のリストを表示します。表示するリストのタイプは、[取得リストのタイプ]で選択することができます。

《注意》

現在の値を取得するためには、[しきい値]タブの「注意」「危険」を設定しておく必要があります。未設定の場合に[現在の値の取得]ボタンをクリックするとエラーとなります。

エラーメッセージ例:

WTSの指定プロセスのユーザーリスト取得に失敗しました。

c. 取得リストのタイプ:

取得するリストのタイプをユーザー名、クライアント名、セッション ID からクリックします。

C. 監視条件

The screenshot shows a dialog box titled "WTS プロセス監視(ユーザー/クライアント/セッション リスト取得)のプロパティ". It has four tabs: "全般", "設定", "監視設定", and "しきい値". The "しきい値" tab is selected. Inside the dialog, there are two main sections:

- 注意(W)**: A text input field containing "3" and a dropdown menu set to "以上".
- 危険(D)**: A text input field containing "3" followed by the text "回 目の注意から".

Below these sections is a note: "*同一ユーザー(またはクライアント)が複数のセッションを開いている場合、該当セッションの合計値が判定されます。". At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル", and "適用(A)".

a. 注意条件、b. 危険条件の設定:

設定の詳細は、WTS セッション監視 (セッション数取得) の[しきい値]タブを参照してください。

D. 監視結果(取得リストの参照方法)

C. のしきい値に従って監視サービスがリストの取得を行いますが、表示される監視値は取得リストのアイテム数(数値)になります。

詳細は WTS セッション監視 (ユーザー/クライアントリスト取得) の D. 監視結果 (取得リストの参照方法) を参照ください。

3-3 アクション項目の設定

Citrix オプション Ver.5.0 で追加されたアクション項目のプロパティについて説明します。

[全般]タブ、[実行条件]タブについては Citrix オプションのアクション項目で共通しています。BOM 5.0 の設定とも同等になります。

A. 全般

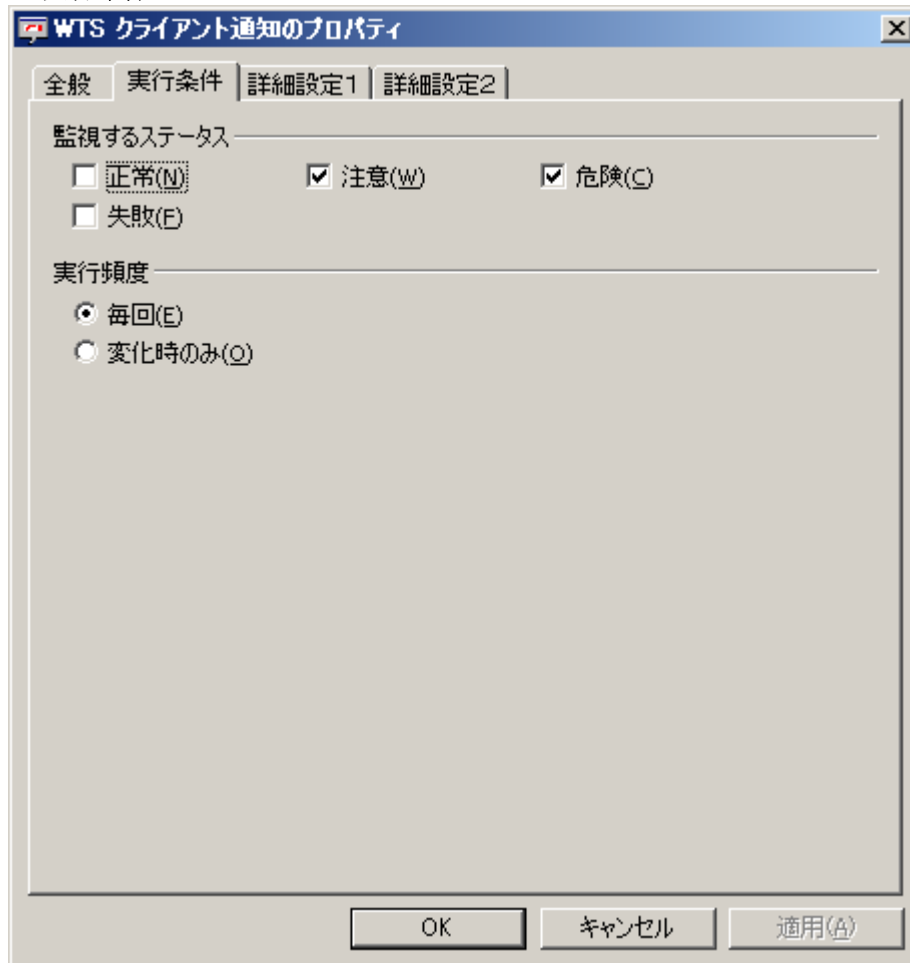
有効 :チェックボックスにチェックを入れると本アクション項目は有効になります。デフォルトは有効になっています。

名前 :アクション項目の名前を指定します。127 文字まで入力可能です。

コメント :3000 文字以内で入力することができます。テンプレートをコピーしてアクション設定を行う場合は、ここに有用な情報が書かれている場合がありますので必ず確認してください。

1 回のみ実行 :実行後にアクションが無効になります。監視条件により 1 度だけ実行したい場合に設定ください。

B. 実行条件

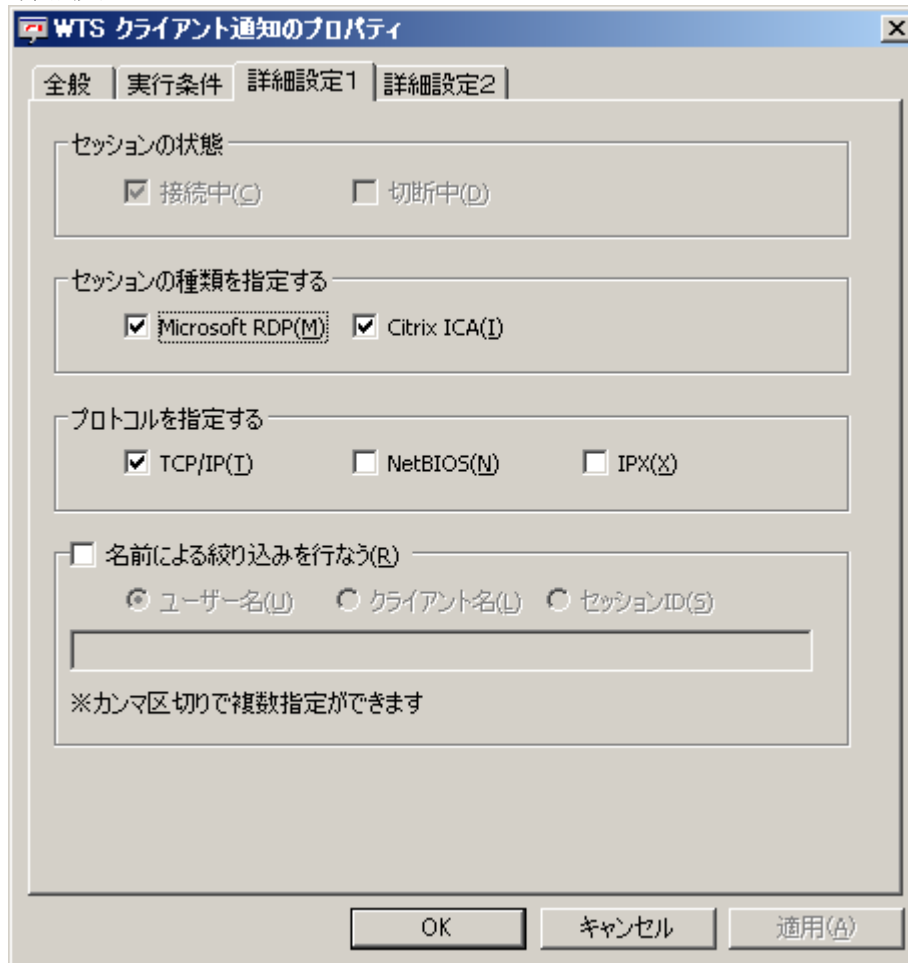


監視するステータス :クライアント通知の実行条件を設定します。監視結果のステータスにチェックのある場合にクライアント通知が実行されます。デフォルトは注意、危険、失敗のステータス時にクライアント通知が行われます。

実行頻度 : 毎回 監視結果のステータスが上記条件に適した場合にはその都度実行します。
変化時のみ 監視結果のステータスが変化したときのみ実行します。

3 - 3 - 1 WTS クライアント通知

A. 詳細設定1



a. セッションの状態:

「接続中」で固定となります。

接続中: 接続中のセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールで、[セッション]タブの「状態」が“アクティブ”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、“Active”と表示されます。)

さらに[セッションの種類を指定する][プロトコルを指定する][名前による絞り込みを行なう]の絞り込み条件を指定することができます。

b. セッションの種類を指定する:

Microsoft の RDP または Citrix ICA を指定します。「切断中」のセッションに対しての指定は無効となります。「セッションの種類を指定する」にチェックを入れなければ、すべてのクライアントが対象になります。

Microsoft RDP:

リモートデスクトップクライアントのセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールでセッションの種類が”RDP”と表示されるセッションが対象になります。(ターミナルサービスマネージャでは、”Microsoft RDP”と表示されます。)

Citrix ICA:

Citrix クライアントのセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールで、[セッション]タブの「種類」が”ICA”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、”ICA”と表示されます。)

c. プロトコルを指定する:

セッションのプロトコル種類を指定できます。指定は複数設定も可能です。ただし、「切断中」のセッションに対しての指定は無効となります。[プロトコルを指定する]にチェックを入れなければ、すべてのプロトコルのセッションが対象になります。

指定できるプロトコルの種類は、TCP/IP, NetBIOS, IPX の 3 種類です。

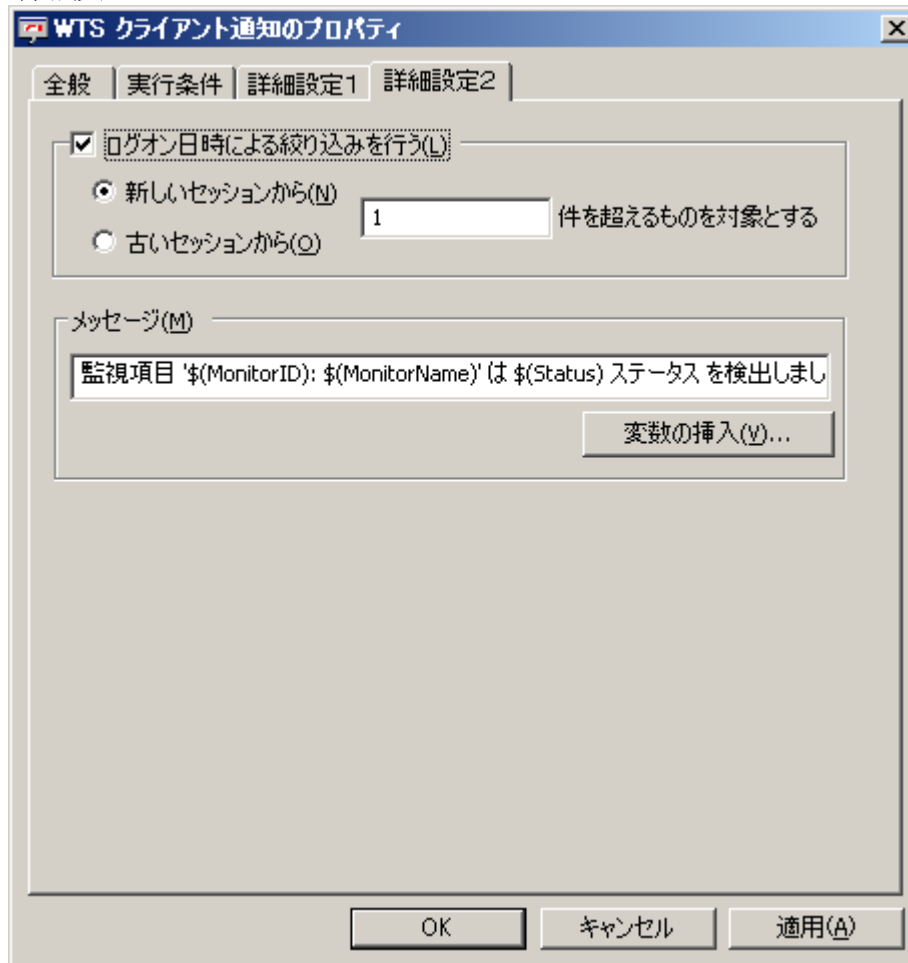
d. 名前による絞り込みを行なう:

ユーザー名かクライアント名をクリックし、入力した条件で絞り込みを行います。カンマ区切りで指定すると、複数のユーザーまたはクライアントに対して絞り込みを行うことができます。名前を入力するときは、スペースは入力しないでください。

以下の場合には、名前による絞り込みは行われません。

- ・ [名前による絞り込みを行なう]にチェックを入れない場合
- ・ ユーザー名かクライアント名が入力されていない場合

B. 詳細設定2



a. ログオン日時による絞り込みを行う:

[詳細設定 1]で指定した条件に該当する値を、さらにログオン日時で絞り込みを行うことができます。ログオンした日時は Citrix 管理コンソールでは「ログオン時間」、ターミナルサービスマネージャでは「ログオン日時」で表示されています。「新しいセッションから」または「古いセッションから」指定した件数を超えるセッションが対象となります。

<例> [詳細設定 1]で指定された条件で絞り込まれた値が以下のような場合

セッション ID	ユーザー	クライアント	ログオン時間(ログオン日時)	
3	User1	PC-A	2007/12/01 15:40	...①
2	User2	PC-D	2007/12/01 15:41	...②
1	User3	PC-A	2007/12/01 15:45	...③
4	User1	PC-D	2007/12/01 15:50	...④
5	User5	PC-D	2007/12/01 16:00	...⑤
6	User7	PC-A	2007/12/01 16:21	...⑥
8	User6	PC-A	2007/12/01 16:22	...⑦
7	User5	PC-A	2007/12/02 09:30	...⑧

「新しいセッションから 5 件を超えるものを対象とする」と設定すると...

→①、②、③ が対象となります。
「古いセッションから 5 件を超えるものを対象とする」と設定すると・・・
→⑥、⑦、⑧ が対象となります。

《注意》

“0 件”の指定はできません。0 件を指定すると、エラーとなります。

b. メッセージ:

通知するメッセージを必ず入力してください。[変数の挿入...]で以下の予約済み変数を使用して監視内容を通知することも可能です。

《予約済み変数》

\$(MonitorName) 監視項目名

\$(MonitorID) 監視項目 ID

\$(TargetComputer) 監視対象コンピュータ

\$(InstanceName) インスタンス名

\$(InstanceID) インスタンス ID

\$(GroupName) グループ名

\$(GroupID) グループ ID

\$(RunTime) 監視もしくはアクションの実行時刻

\$(Duration) 監視もしくはアクションの実行時間[秒]

\$(Status) 監視ステータス:(正常/注意/危険/失敗)

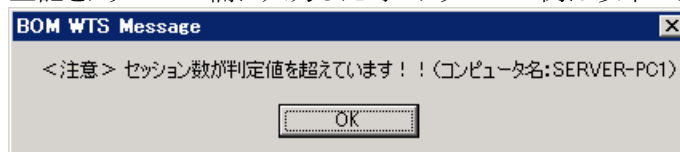
\$(Value) 監視値

<メッセージ例>

メッセージ欄:

<\$(Status)> セッション数が判定値を超えています！！(コンピュータ名:\$(TargetComputer))

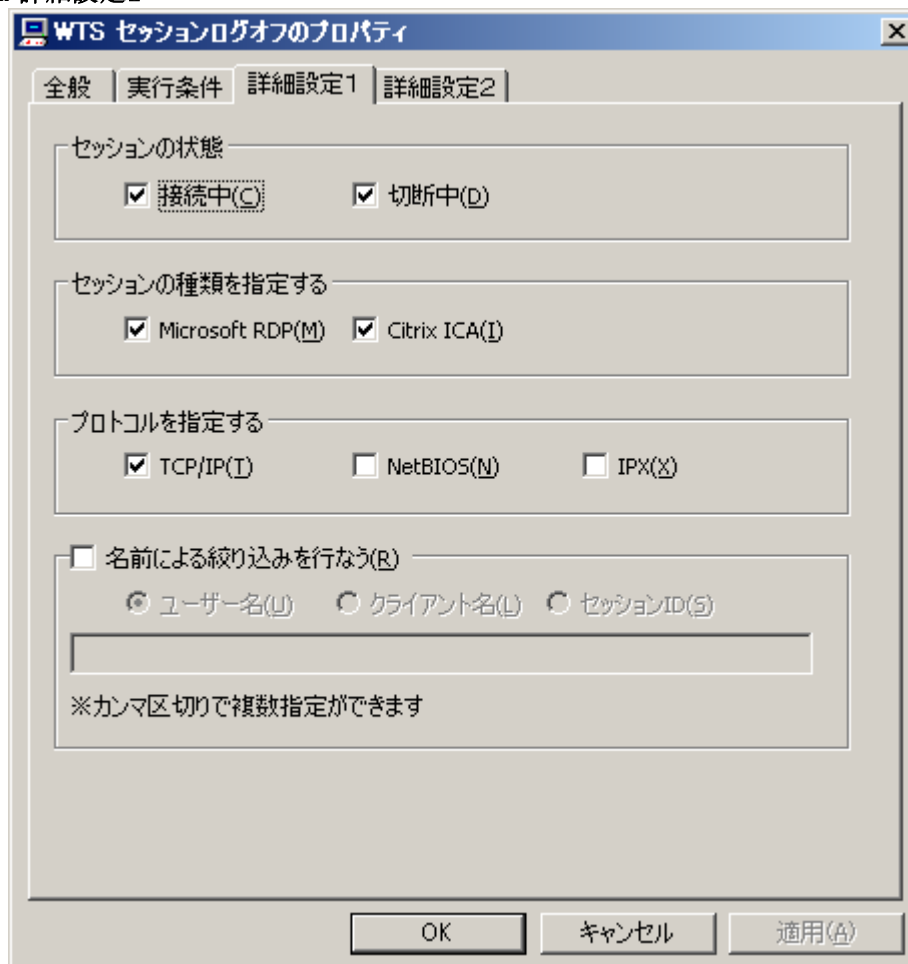
上記をメッセージ欄に入力した時のメッセージ例は以下の通りです。



3 - 3 - 2 WTS セッションログオフ

指定した条件に該当するステータスのセッションを強制的にログオフします。ただし、Citrix 管理コンソールもしくはターミナルサービスマネージャで、[セッション]タブの「セッション」が“Console”と表示されるセッションは対象外となります。

A. 詳細設定1



a. セッションの状態:

監視するセッションの状態を指定します。「接続中」もしくは「切断中」のどちらかを指定してください。(必須)

接続中: 接続中のセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールで、[セッション]タブの「状態」が“アクティブ”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、“Active”と表示されます。)

さらに[セッションの種類を指定する][プロトコルを指定する][名前による絞り込みを行なう]の絞り込み条件を指定することができます。

切断中: 切断状態のセッションが対象になります。

Citrix 管理コンソールでは、[セッション]タブの「状態」が“切断”と表示されるセッションが対象となります。

(ターミナルサービスマネージャでは、“Disconnected”と表示されます。)

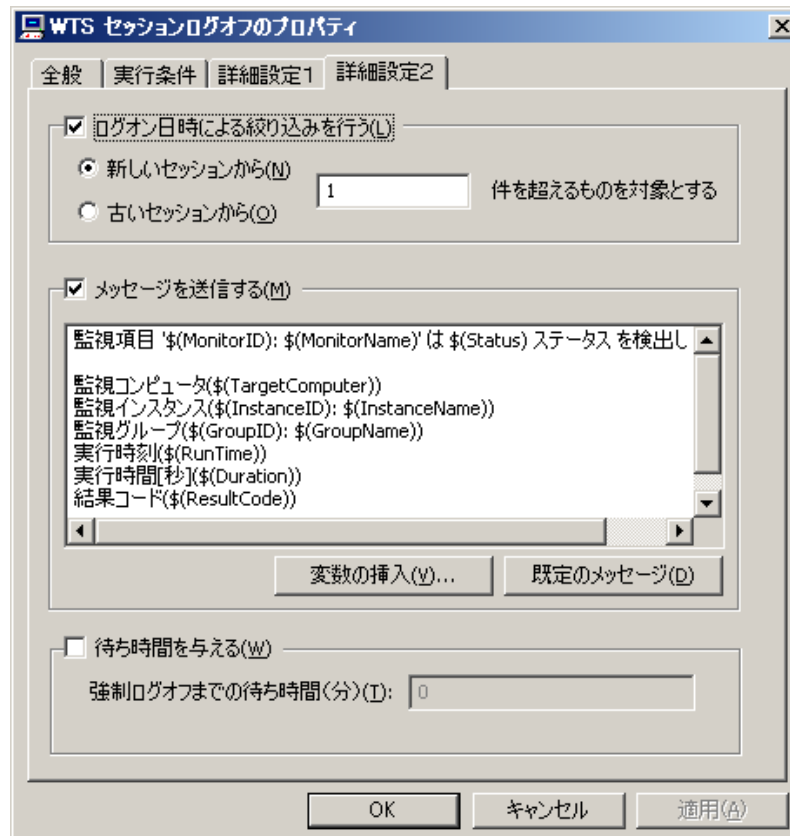
さらに[名前による絞り込みを行なう]の絞り込み条件を指定することができます。

- b. セッションの種類を指定する、c. プロトコルを指定する、d. 名前による絞り込みを行なう:

詳細は WTS クライアント通知の[詳細設定1]タブを参照ください。

B. 詳細設定2

強制ログオフするセッションの絞り込み条件と、ログオフするまでの通知メッセージおよび待ち時間を指定します。



- a. ログオン日時による絞り込みを行う:

詳細は WTS クライアント通知の[詳細設定 2]タブを参照ください。

- b. メッセージを送信する:

通知メッセージを入力します。[変数の挿入...]で以下の予約済み変数を使用して監視内容を通知することも可能です。もし、初期の設定に戻すときには[既定のメッセージ]ボタンをクリックすればデフォルト値に戻ります。

《予約済み変数》

\$(MonitorName) 監視項目名

\$(MonitorID) 監視項目 ID

\$(TargetComputer) 監視対象コンピュータ

\$(InstanceName) インスタンス名

\$(InstanceID) インスタンス ID

\$(GroupName) グループ名

\$(GroupID) グループ ID

\$(RunTime) 監視もしくはアクションの実行時刻

\$(Duration) 監視もしくはアクションの実行時間[秒]

\$(Status) 監視ステータス:(正常/注意/危険/失敗)

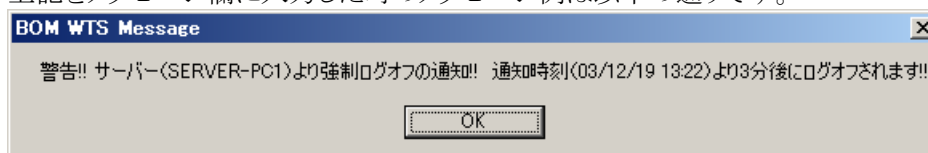
\$(Value) 監視値

<メッセージ例>

メッセージ欄:

警告!! サーバー(\$(TargetComputer))より強制ログオフの通知!! 通知時刻(\$(RunTime))より 3 分後にログオフされます!!

上記をメッセージ欄に入力した時のメッセージ例は以下の通りです。



c. 待ち時間を与える:

[強制ログオフまでの待ち時間(分)]で指定した時間を超えると強制的にログオフが実行されます。

4 付録

4-1 各監視項目エラーメッセージ一覧

エラーコード	エラー内容
0xFFFFFFFF	監視1回目
0x80040847	GetPObj がない
0x80040841	PERFDATA レジストリにオブジェクトがない
0x80040842	PERFDATA レジストリにカウンタがない
0x80040843	インスタンスがない
0x80040848	GetPObj2 がない
0x80070057	パラメータエラー
(Windows システムエラーコード) WTSOpenServer WTSEnumerateSessions	セッション情報取得エラー
0x80040844	レジストリにオブジェクトがない
0x80040845	レジストリにカウンタがない
0x80004008	バッファサイズ不足
0x80040849	監視項目数が最大を超えた
(Windows システムエラーコード) RegConnectRegistry	RegConnectRegistry 失敗
0x80040846	サポートしてないカウンタタイプ
0x80070057	単位がおかしい
(Windows システムエラーコード) RegQueryValueEx	GetSystemPerfData エラー
0x80020013	バッファ不足
0x8004084A	評価期間が過ぎた
0x80040840	エラーコードがない場合のコード
0x80070057	コマンドの構文が誤っている。
(Windows システムエラーコード) WTSOpenServer WTSEnumerateSessions	セッション情報の取得に失敗した。
(Windows システムエラーコード) WTSOpenServer WTSEnumerateSessions	プロセス情報の取得に失敗した。
0x80040873	ロードライブラリに失敗した。
0x80040874	関数呼び出しが行えない
0x80020013	バッファサイズ不足

4 - 2 各アクション項目エラーメッセージ一覧

イベント ID	内容
5000	メッセージの送信に失敗しました。
5001	WTSサーバーのオープンに失敗しました
5002	セッション情報の取得に失敗しました。
5005	レジストリの書き込みに失敗しました。
5006	コマンドの構文が誤っています。
5007	その他のエラー
5009	該当セッションが見つかりません。

BOM 監視オプション for Citrix Presentation Server
ユーザーズ マニュアル

2007年11月8日 初版

2010年2月28日 改訂版

著者 セイ・テクノロジーズ株式会社

発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社

発行 セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン Ver.5.0.3

Copyright © 2007-2010 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.
